

2022（令和4）年度 学校マネジメントシート

三重県立上野高等学校（全日制）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒が学びがいを実感する学校 2 保護者・地域が頼りがいを実感する学校 3 教職員が働きがいを実感する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ol style="list-style-type: none"> 1 挨拶を大切にする生徒 2 気づきを大切にする生徒 3 命を大切にする生徒
	ありたい 教職員像	<ol style="list-style-type: none"> 1 自由闊達な職場風土の中で協働と研修を通して職能成長を図る教職員 2 生徒の成長に使命と情熱を感じる真の教育専門職を目指す教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<ul style="list-style-type: none"> ○生徒：学力の向上と進路希望の実現、勉学と部活動の両立 ○保護者：国公立大学への進学を中心とする進路希望の実現、充実した学校生活 ○卒業生・地域住民：地域の伝統的な進学校・中心校としての役割、文武両道にわたる活躍と実績 ○大学：学力と意欲の高い生徒の育成 	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<ul style="list-style-type: none"> ○PTA：進路希望実現、健全育成、学校情報の発信・提供 ○地域住民：情報発信と地域貢献 ○小中学校：地域の子どもたちを共に育てるとの観点に立った連携・交流 ○地域の関係機関：地域人材の輩出 		<ul style="list-style-type: none"> ○PTA：教育活動・教育環境充実のための理解・協力 ○地域住民：教育活動への理解・協力 ○小中学校：指導上必要な情報提供等 ○地域の関係機関：キャリア教育充実のための協働態勢
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ○国公立大学はもとより、関東方面の難関私立など関西・中京方面以外の幅広い選択肢を持てるような進路情報提供が必要である。 ○第一志望の実現を目指して、夏から実践演習が行える教科の増加に向けてカリキュラムマネジメントを行い、コロナ禍におけるICTの活用を一層推進する必要がある。 ○文武両道の伝統を引き継ぎ部活動では大きな成果を上げている。生徒が横のつながり強め、互いに夢を共有して励ましあう環境を作り強化と、伊賀・名張地域を超えて情報発信に取り組んで学校の活性化に取り組む必要がある。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○文武両道の伝統があり、生徒の多くが勉強と部活動の両立を図りながら、一丸となって学校行事に取り組むなど充実した学校生活を送っている。熱心できめ細やかな学習指導と進路指導の結果、難関国公立大学をはじめ、生徒・保護者の高い国公立志望に答えており、芸術系大学進学など幅広い進路希望の実現を果たしている。 ○人権尊重の態度を身に付けた心豊かな人間形成を目指し、気づきつながりあう活動は評価されており、今後も、いじめや差別を見抜き解決に向けて行動できる力の育成を図りながら、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取組と合わせて、想像力・協調性を伸ばし、新たな課題の解決に積極的に取り組む生徒の育成を図る。 	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○これからの時代に対応した学習に取り組めるよう、学際的な学びや地域に関する学びに重点的に取り組む探究活動の在り方を検討し、生徒が生き生きと学校生活を送る姿が、中学生や地域に広く伝わるように「開かれた学校づくり」を推進する。 ○時間外労働時間の削減は前進したものの、「三重県立学校における教育職員の在校時間の上限等に関する規則」に則り、時間外労働が1カ月45時間以内、1年360時間以内を遵守できるよう、組織な運営で業務時間を削減する。 	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>1 目指す学校像「生徒が学びがいを実感する学校」を実現するための重点目標 「全教職員による共通理解の下、生徒の『自己指導能力』（その時、その場で、何をすべきで、何をすべきでないかを自ら考え、判断し、行動する能力）を向上させる共通実践を継続することにより、生徒一人ひとりが自律的な学習習慣と生活態度を確立して進路希望を実現し、さまざまな教育活動に主体的・協働的な態度で取り組み、他者と共生する力を身に付けている。」という状態を重点目標とする。</p>
学校運営等	<p>2 目指す学校像「保護者・地域が頼りがいを実感する学校」を実現するための重点目標 「探究に力を入れた教育活動の推進、学校情報の積極的な提供・発信、学校関係者評価委員会・人権教育推進協議会の活性化、いじめを許さない迅速な対応等により、保護者・地域の満足と信頼を安定的に確保しており、その結果、本校への入学を希望する中学生とその保護者が増加する傾向にある。」という状態を重点目標とする。</p> <p>3 目指す学校像「教職員が働きがいを実感する学校」を実現するための重点目標 「活気のある明るい組織風土の中で教育活動・学校運営を継続的に改善するための仕組みや教職員間・校内組織間のチームワークが適切に機能するとともに、過重労働緩和・総勤務時間縮減に関する取組が適切に講じられており、大多数の教職員が本校で勤務することに満足している。」という状態を重点目標とする。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 生徒が学びがいを実感する学校	<p>○全校体制で授業研究に取り組み、学習指導に関する指導力の向上を図る。 【活動指標】 ・教科横断的グループによる研究授業・授業評価の実施 ・より深い学びを主体的に行えるように、すべての授業で ICT の活用を進める。 ・生徒による授業評価年 2 回実施</p> <p>【成果指標】 ・生徒の授業満足度（「とても満足」と「満足」の計、以下同じ）90%以上 ・共同学習や個別学習で ICT を活用した教員割合 80%</p> <p>○生徒が自己の進路希望を実現できるようキャリア教育の充実を図る。 【活動指標】 ・SSH の事業である「上高みらい探究プログラム」と連携し、「進学型キャリア教育」や「進学型インターンシップ」を ICT も活用し系統的に実施する</p> <p>【成果指標】 ・「総合的な探究の時間」の授業満足度 80%以上 ・国公立大学合格者数、各クラス 10 人程度 ・週末の学習支援の実施。土曜講座(サタスタ)7回、土曜自習室 22 回</p> <p>○スーパーサイエンスハイスクール (SSH) の取組を推進する。 【活動指標】 ・探究的な内容を含んだ授業を各科目の 90%以上で実施 ・高大連携先の開拓と卒業生・他校 SSH との協力体制の推進 ・「みらい探究 R」の授業運営方法の確立と体系的な指導体制の構築</p> <p>【成果指標】 ・生徒の各活動満足度各学年 90%以上</p>		
改善課題			

(2) 学校運営等

<p>2 保護者地域が頼りがいを実感する学校</p>	<p>○人権教育を積極的に推進する。 【活動指標】 ・人権学習LHRを各学年年1回以上公開 ・教職員の全体研修、小グループ研修をそれぞれ年2回以上実施 ・全教職員が年3回以上実施するフィールドワークに1回以上参加 ・生徒が主体的に取り組む小学6年生との人権交流会を年2校以上実施 【成果指標】 ・人権問題の解決に向け主体的に考え、実践できる生徒の増加 ○生徒理解を深め、生徒の自己指導能力を高める指導を推進する。 【活動指標】 ・指導強化月間を年3回設け、あいさつ・身だしなみ、時間厳守、規律・安全指導を実施する。 ・保健講話またはメンタルヘルス講演会を各学年1回実施 ・支援を必要とする生徒に関する事例検討会を適宜実施 【成果指標】 ・問題行動による特別指導件数を一層減少 ○学校情報を積極的に提供・発信し、地域の発展に貢献する。 【活動指標】 ・ホームページ・報道機関を通じて情報発信(更新履歴件数)年100件以上 ・生徒主体の学校説明会(体験授業を含む)年2回開催 ・小中校との連携、地域イベントへの協力 【成果指標】 ・令和5年後期選抜普通科・理数科合計入学志願倍率1.1倍以上</p>		
<p>3 教職員が働き甲斐を実感する学校</p>	<p>○過重労働緩和・総勤務時間縮減を学校全体で進める。 【活動指標】 ・定時退校日を月1日設定し、定時退校できた職員の割合70%以上 ・放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合90%以上 ・部活動休養日を週1日設定し活動した部活動の割合100% 【成果指標】 ・月45時間を超える時間外労働の延べ人数0人 ・年360時間を超える時間外労働の人数0人 ・1人当たりの月平均時間外労働19時間以下 ・1人当たりの年休取得日数を昨年比2.1日増加(目標値16.0日)</p>		
改善課題			

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	
<p>学校運営についての改善策</p>	